

生物多様性保全ー「ACORN」活動

オカムラグループの事業活動は、自然環境からの恵みを受けて成り立っており、同時に自然環境に対して影響を与えています。木材等の自然資源を利用する企業としての責任を認識し、「ACORN」活動指針や「木材利用方針」に基づく取り組みを通じて、人と自然が共生し、自然がもたらす「生態系サービス」*を持続的に享受できる社会の構築に貢献します。

* 生態系サービス：生物多様性によって生み出され、人間が恩恵を受けている自然の「恵み」のこと。「供給サービス」「調整サービス」「文化的サービス」「基盤サービス」の4つに分類される

オカムラグループの事業と 生物多様性の関係

オカムラグループでは生態系サービスの基盤である生物多様性の損失は、「自然災害のリスクの拡大」「作物・森林・その他自然資源供給の減少」「感染症発生リスクの拡大」を及ぼす重要な課題と認識しています。

こうした認識のもと、事業活動における環境負荷低減に積極的に取り組んでいます。

地域環境の保全に関する調査の実施

オカムラグループでは事業活動において地域の環境に影響を及ぼすリスクを認識し、静岡県御殿場市にある富士事業所にビオトープを整備したことを機に、自然環境の変化の調査をスタートしました。生物多様性の指標といわれる野鳥を調査することで、ビオトープが周辺地域の環境をアシストできているのかを評価し、管理手法の見直しにもつなげていきます。専門家のサポートを受け、調査には従業員も参加しています。

(関連 ▶ P.70)

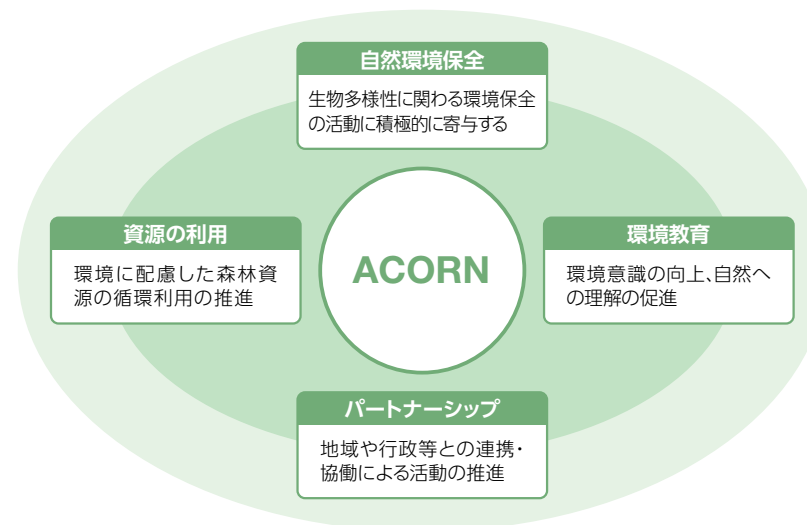
森林資源の利用に伴う環境リスクへの対応

毎年、使用する木材の樹種・取り扱い量・原産地を調査・把握しています。絶滅危惧種については、ワシントン条約(CITES) *1や「JOIFA 重点管理材」*2に照らし合わせて、該

当する木材を利用していないことを毎年調査・確認しています。
(詳細 ▶ P.62)

- * 1 ワシントン条約 (CITES) : 「絶滅のおそれのある野生動植物の国際取引に関する条約」
- * 2 JOIFA重点管理材: ワシントン条約などをもとにオフィス家具の業界団体である社団法人日本オフィス家具協会 (JOIFA) が選定した木材で、使用実績の把握など使用状況に関して管理をしている木材

ACORN活動指針 (2021年12月策定)



「ACORN」活動指針

オカムラグループは、自然との共生に向けたアクションを「ACORN (エイコーン)」と名付け、活動指針に基づき、資源の利用、環境教育、自然環境保全、パートナーシップの4つの視点から取り組みを推進しています。ACORNは、英語でどんぐりを意味する言葉です。次の種(しゅ、たね)をつなぐためになくてはならない存在であるどんぐりを、オカムラの活動の象徴としました。



ACORN

ロゴマーク

資源の利用

オカムラグループは自然資本に依存していることを認識し、持続可能な資源の利用を目指します。

「オカムラグループ 木材利用方針」に基づく 取り組み

2009年10月に策定した「オカムラグループ 木材利用方針」において、生物多様性の保全、木材の合法性の確保、森林認証材や国産材・地域材の利用などに関する考え方を明記し、本方針に基づき森林資源の持続可能な利用を推進しています。

オカムラグループ 木材利用方針

1. 以下の木材を利用しません。
 - 1) 絶滅危惧種
 - 2) 違法に伐採・生産・取引された木材
 - 3) 森林生態系や地域社会に悪影響を与えている木材
2. 以下の木材の利用を拡げます。
 - 1) 信頼のある森林認証を受けた木材（または同等の証明のある木材）
 - 2) 建築廃材・リサイクル材
 - 3) 国産材・地域材

木材の利用状況

2022年度のオカムラグループ全体の原材料投入量の4.5%が木質材料です。木質材料のうち83.7%が間伐材^{*1}、廃木材、未利用材およびそれらの二次加工品など「原木を材料としない木質材料」となっています。

オカムラが使用する木材の樹種・原産国と取り扱い量（2022年度）

樹種	材形状	取扱量（m ³ 換算）	輸出国・地域（原産国）
ラワン	無垢材 ^{*2} 、合板 ^{*3} 、成型合板、積層材	1,213.55	インドネシア、マレーシア、日本、フランス
ポプラ	無垢材	37.25	東南アジア
カプール	無垢材、合板	55.93	マレーシア、フランス
ラバーウッド	無垢材、集成材	73.36	タイ、ベトナム、ベルギー
ビーチ	無垢材、合板、突板	94.31	ニュージーランド、フランス、北欧、ドイツ、他
ブナ	無垢材、合板、成型合板、突板、集成材	88.53	デンマーク、ドイツ、日本、北欧
ヒノキ	無垢材、集成材	0.00	日本
ホワイトオーク	無垢材、単板、突板	3.46	日本、北米、他
アユース	単板、突板、集成材	23.50	アフリカ、アメリカ
ローズウッド	突板	1.98	東南アジア、南米
その他	無垢材、合板、突板など	88.24	
合計		1,680.11	

*1 間伐材：樹木の生長に伴って、混みすぎた立木を一部抜き伐りする際に発生した木材

*2 無垢材：原木から板などを直接、必要な寸法に切り出した材

*3 合板：丸太から薄くむいた板（単板）を、繊維（木目）の方向が直交するように交互に重ねて接着したものの。通称ベニヤ板

「オカムラグループ 木材利用方針」に基づく製品開発

オカムラグループは、「オカムラグループ 木材利用方針」に基づく製品開発を行い、それらの製品を用いた空間をお客さまに提案することで、森林の健全化とともに森林資源の持続可能な利用を推進しています。

木質リサイクル資源*の利用

1966年、木質リサイクル資源を主原料とするパーティクルボードを、オカムラが日本で初めて家具に導入しました。以降、デスクシステムや会議テーブルなどの製品の芯材としてパーティクルボードやMDF（中密度繊維板）を利用するなど、幅広い用途へ拡大し、木質素材の資源循環を促しています。（データ集 ▶ P.148）



MDF 繊維



パーティクルボード チップ

* 木質リサイクル資源：木材原料を繊維状または小片に細分化し、これを接着剤などの結合剤によって再構成した板材。前者の製品例として中密度繊維板（MDF：Medium-Density Fiberboard）、後者の製品例としてパーティクルボードがあり、主原料は木質リサイクル資源である

国際的な認証制度の取得

オカムラは、2010年6月、国際的に認知された森林認証制度であるFSC®認証*1（CoC認証*2）を取得しています。FSC®認証材を使用した製品は、環境・社会的な問題のリスクの低い原材料が責任をもって調達され、使用されていることを意味しています。

2023年3月現在、FSC®認証材使用製品は10シリーズになります。また、2022年度の木質製品のうちFSC®認証材の使用率は4.21%でした。

* 1 FSC®認証：適切に管理された森林を認証する国際的な認証制度。FSC（Forest Stewardship Council®、森林管理協議会）は、責任ある森林管理を世界に普及させることを目的とする国際的な非営利団体



* 2 CoC（Chain-of-Custody）認証：FSC®認証における生産・加工・流通過程の認証

- ・ 認証番号：SGSHK-COC-350013
- ・ トレードマークライセンスコード：FSC-C092797

木材の合法性等の確保

JOIFA（日本オフィス家具協会）による木材・木材製品の合法性に関する事業者認定を受けています。また、グリーン購入法に基づき、製品ごとに木材の合法性*に関する調査、使用実績報告等を実施し、合法性・持続可能性が証明された木材・木材製品の使用や販売推進に努めています。

* 木材の合法性：木材の伐採にあたって、原木が生産された国または地域における森林に関する法令に照らし合わせて、手続きが適切になされたものであること



責任ある森林管理のマーク

国産材・地域材の利用

日本の森には伐採時期を迎えたスギやヒノキが大量に余っており、今まさにそれらを使うことが森林環境の循環やCO₂の削減に役立ち、地域産業の活性化にもつながります。オカムラは高度な技術により、これまで建材用途としてしか使うことができなかった針葉樹材を余すことなく使い、反り割れのリスクが非常に低い家具用材としてまた利用できるようにしました。こうした技術を活用し、高品質な家具をつくることで国産木材への信頼性を高め、木材活用の定着を目指します。

また、東京都港区が進める、みなとモデル二酸化炭素固定認証制度に事業者として登録しており、港区と協定を締結した自治体の木材利用を通じ、「都市の木質化」を促進しています。



さがみ信用金庫 岩原プラザ支店 様
地域の店舗に、状態があまり好ましくなかった地産のスギ材を特殊な技術により家具用材に仕立て有効活用した事例

自然環境保全

オカムラグループは自然環境の保全に向けた取り組みとして、体験型研修での意識の醸成を行うとともに、社内敷地内で地域固有の自然環境の保全を目指したビオトープを整備しました。今後も生物調査を行い観察を継続していきます。

「ACORN」活動の浸透に向けた取り組み

「ACORN」活動をより広く社内に浸透させるため、体験型の研修や勉強会、地域の特性を踏まえた環境保全活動等を通じて、環境意識の向上を図っています。

さらに、お客さまにも生物多様性や木材の持続可能な利用に対する理解を深めていただき、活動の輪を広げています。

体験型研修による自然環境への意識の向上

オカムラグループの従業員の自然環境保全意識の向上を図るため、さまざまなテーマで実体験を通じた研修を実施しています。

オカムラがオフィシャルスポンサーとなっている一般財団法人C.W.ニコル・アフンの森財団が長野県信濃町に所有する「アフンの森」において、2011年度から森の手入れを通して里山や生物多様性の重要性について学ぶ研修を実施しています。また、国産材活用に関心のあるお客さまや自治体などの交流の場として、2017年からワークショップ「WoodLand WoodWork」を開催しています。

2022年度は新たに、東京都檜原村にある株式会社東京チェーンソーズが運営する「MOKKI NO MORI」で、「森の経済を回す」オカムラの国産材活用の意義を考える」をテーマに研修

を実施しました。研修では、林業の実態などの話を聞き、習得した知識や感性を製品・サービスや業務に生かせる内容となっています。



焚火を囲み研修を振りかえる(2022年11月)

知見を活かした次世代の育成

森林資源を原材料に利用している企業としての知見、ものづくりの視点からの知識や工夫、木材の利活用の意義や現状などを若い世代に伝え、森林資源の持続可能な利用への理解を広げていくために、以下のような活動を実施しています。

- 小学校での環境出前授業の実施
- 大学での寄付講座
- 産学官連携による木育と地域活性化

(詳細 ▶ P.69)

情報発信による活動の展開

「ACORN」活動の環を広げるために、さまざまな媒体を通じて情報発信を行っています。

国産材の利用拡大に向けた情報発信

オカムラでは、国産材利活用のポリシーや積み重ねてきた研究、木に関する知識などを分かりやすくまとめたカタログ「国産材を使う家具づくり」と「オカムラ・日本の木プロジェクト事

例集 vol.1-3」を発行しています。お客さまの国産材利活用検討の参考となる情報提供だけでなく、社内のさまざまな部門の従業員が理解を深めることにもつながっています。



国産材を使う家具づくり、オカムラ・日本の木プロジェクト事例集 vol.1-3

ウェブサイト、冊子の発行による情報発信

オカムラグループの「ACORN」活動を紹介し、多くの方に自然環境や生物多様性に対する理解を深めていただくことを目的として、「ACORN」ウェブサイトを開設しています。また、冊子『ACORN』を発行し、活動レポート、季節に合わせたトピックス記事など、多くの方に楽しみながら理解を深めていただける情報発信に努めています。

 オカムラ ACORN ウェブサイト
<http://acorn.okamura.co.jp/>



冊子『ACORN』

パートナーシップ

オカムラグループは、環境保全団体等への参加やパートナーシップを通じて、生物多様性保全をはじめとする活動の環を広げています。

外部イニシアチブへの参加

開発途上国および国内の自然保護活動を支援するとともに、企業の自然保護活動を促進することを目的に1992年に設立された経団連自然保護協議会に入会しており、「経団連生物多様性宣言・行動指針」（2009年策定）に賛同し、その趣旨を踏まえた取り組みを進めています。

 経団連自然保護協議会
<https://www.keidanren.net/kncf>



経団連生物多様性イニシアチブ
ロゴマーク